

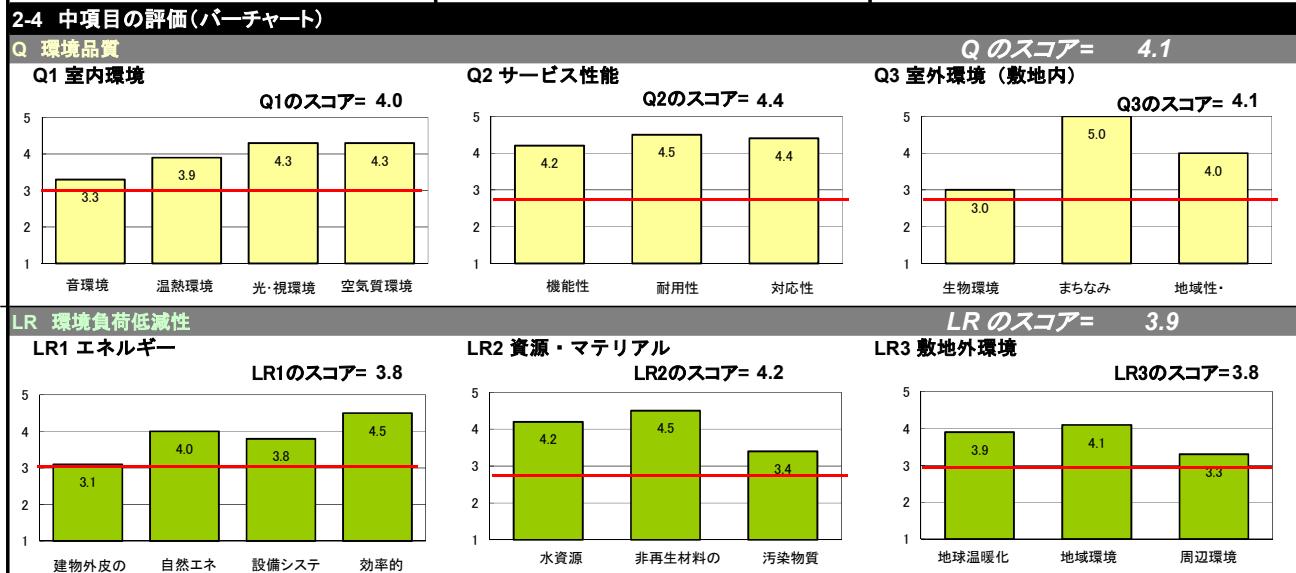
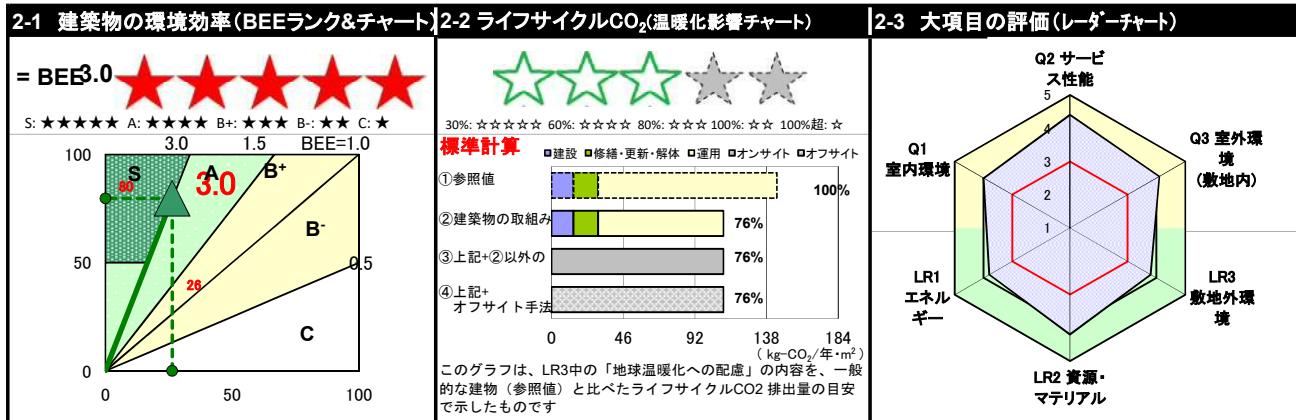


評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Nagoya_2016年版、名古屋市環境総合性能評価マニュアル2016

■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	明治安田生命名古屋駅前ビル建替計画	階数	地上20F
建設地	名古屋市中村区名駅4丁目4-3-25	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	2,359 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、	評価の段階	
竣工年	2026年7月 予定	評価の実施日	2023年4月1日
敷地面積	3,467 m ²	作成者	
建築面積	2,295 m ²	確認日	2023年4月20日
延床面積	39,570 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		その他	
総合		特になし	
名古屋駅に位置する、高効率エアコンや全熱交換器、星光制御を取り入れた照明など、省エネルギー性に配慮した貸しオフィスビル。			
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	
自然制御ブラインドによりグレアを制御した。 空気環境に配慮して仕上げ材は☆☆☆☆を採用するよう計画した。	執務空間の天井高を2.7m以上とし、快適性に配慮した。 バースを用いた検討により、内装デザインに染よした計画とした。	景観に配慮した西面ファサードと、広場状内部空間により街並みに配慮した計画とした。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	
LEW-eガラス、高効率エアコンの採用をはじめ、建物のエネルギー消費量を削減した。	衛生器具は全面的に節水型器具を採用した。 既設躯体を再利用した計画とした。 雨水利用を行った。	十分な駐車台数を確保し、交通負荷抑制に努めている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

明治安田生命名古屋駅前ビル建替計画

■使用評価マニュアル：

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト：

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策			3.9
LR1 エネルギー	3.8	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2 溫熱環境悪化の改善	4.0	0.05	
2. 自然共生			3.4
Q3.1 生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会			4.4
LR2.1 水資源保護	4.2	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	4.5	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 3.4



3. 循環型社会

評価点 = 4.4



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{\text{(評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2)地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4)地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。